

天橋立周辺景観まちづくりの特性

～ 地域特性の整理 ～

検討対象地区

天橋立を中心とした周辺景観（景域）は周囲の山の稜線によって区切られる。

海岸線や展望台から天橋立を望む場合、その眺望景の背景のほとんどは山並みである。

雪舟の「天橋立図」や「丹後与謝海天橋立之図」などの絵画のなかでも、俯瞰的構図の中に山並みによって縁取られている。

阿蘇海と宮津湾の海域を取り囲む山並みの主尾根から沿岸域（陸域）および海域を対象地区とする。

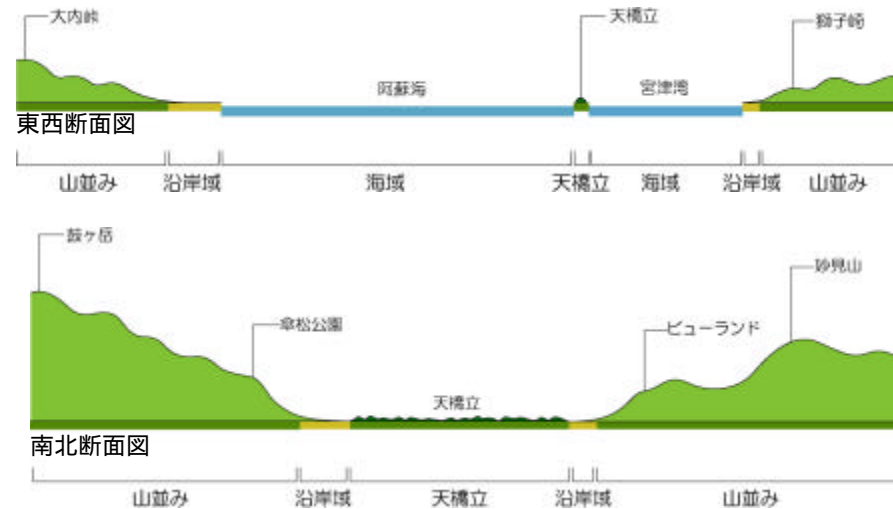
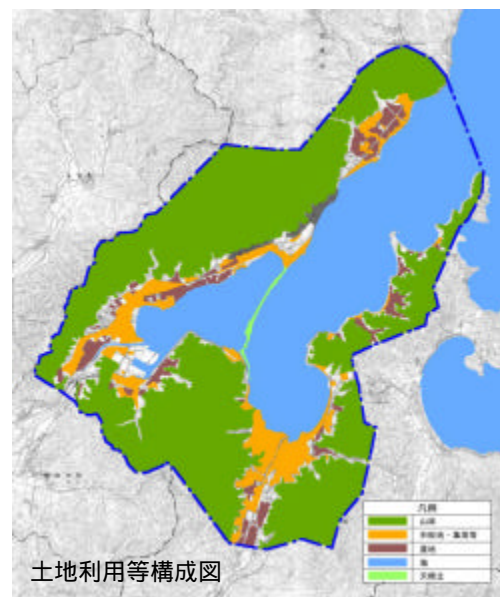


地形とまちの構成

丘陵は成相寺北側の鼓ヶ岳（標高 569m）を最高として、およそ 150m～300m 級の山並みによって構成されている。

天橋立は野田川などから流出する土砂が堆積してできた全長約 3.6km の砂州である。4000 年前、海面に現れたものと推定され、小天橋は文珠砂州が埋め立てられた江戸中期以降に形成されたものである。

沿岸域に形成されている市街地や集落は、宮津湾の湾奥部の宮津中心市街地地区、天橋立が沿岸域に接する付近の文殊及び府中地区、阿蘇海西部の湾奥部に位置する岩滝地区に代表される。



主要な眺望景観と視点場

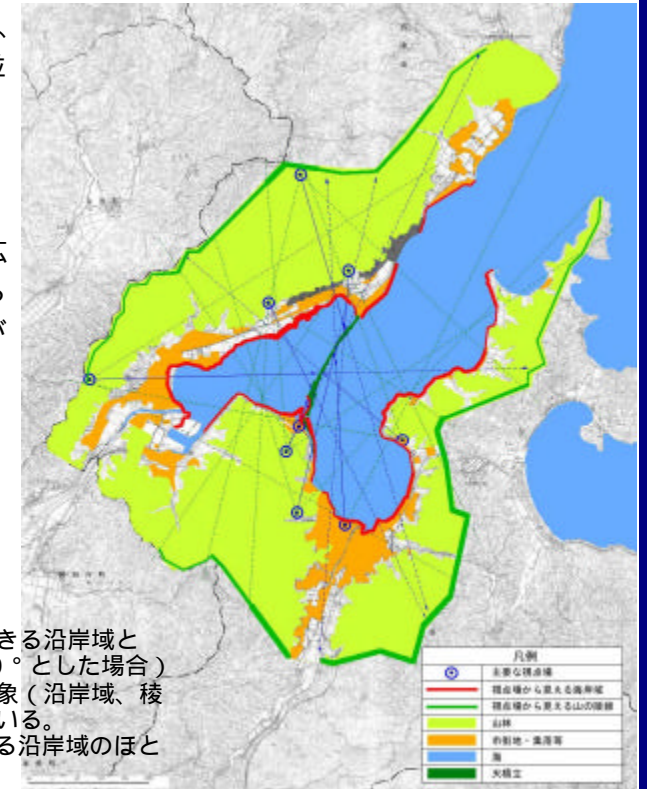
周囲の丘陵の頂や中腹には、複数の展望施設が存在。天橋立への眺望もさることながら、阿蘇海や宮津湾の海域、眼下の沿岸域と対岸の沿岸域及びその背後に広がる山並みを一度に展望が可能。

景勝地としての歴史

古くから親しまれていた展望施設

天橋立は、日本三景の一とされて以来、景勝地として広く世に知られるとともに、古くから展望台が設置されるなど、多くの人が天橋立を俯瞰することができる場所が複数ある。

主要な視点場と視対象の図



主要な視点場から眺望できる沿岸域と山の稜線（視野角度を 60° とした場合）
 ・見られる頻度の高い対象（沿岸域、稜線）ほど線を太くしている。
 ・阿蘇海と宮津湾に接する沿岸域のほとんどが視認できる。

主要な眺望スポット（主要な視点場）

山の頂や高台からの眺望

著名な視点場として、文珠地区のビューランド、岩滝地区の大内峠一字観公園、府中地区の傘松公園などがあげられる。

市街地やその周辺からの眺望

宮津中心市街地の島崎公園付近や府中地区の国分寺跡付近より天橋立を望むことができる。

道路や海上からの眺望

上記の他、多数の人が眺望できる場所として、海岸線付近を通る道路や海上航路など、移動中の車窓からの眺望がある。



傘松公園からの眺望



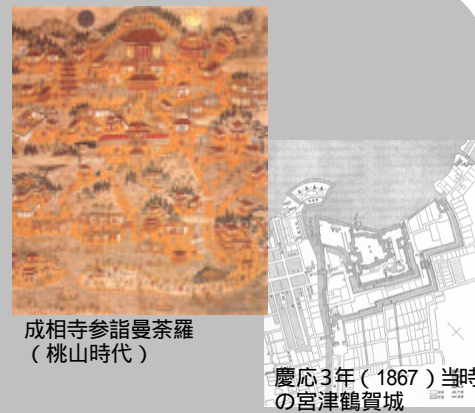
国分寺跡付近からの眺望

天橋立周辺景観まちづくりの特性

～ 歴史的背景、歴史的景観資源等の整理 ～

天橋立周辺の歴史的背景

713年の丹後国設置の時、天橋立の北側、現在の宮津市府中地区あたりに国府が置かれた。国の役所や国分寺が建てられ丹後国の中心であった。宮津の中心市街地付近では、1622年京極氏による築城（大手川の東、臨海部に平城が築かれた）以来、丹後の文化や産業の中心となった。岩滝町男山付近から北に通ずる道は鉄道開通（明治14年）までの丹後半島への連絡路であり、野田川の谷には山陰道に通じる重要な通路があった。この2つの要路の出入口にあたる岩滝は、宮津と共に港として栄え、回船問屋が多く、米や絹織物の積出港であった。



成相寺参詣曼荼羅（桃山時代）

慶応3年（1867）当時の宮津鶴賀城

天橋立を守り育まれてきた歴史的背景

古代の天橋立
「丹後国風土記逸文」（「日本古典文学大系2 風土記」）に、はじめて「天橋立」の地名が見られ、伊射奈芸命がつくった梯子が海上に倒れて海上に横たわってきたものとされている。神の住み給う場としても「天橋立」は認識されていた。

中世の天橋立
室町幕府三代将軍足利義満は文殊堂に六回にもわたって来訪していることや、明応10年（1501）智恩寺に多宝塔が建立されたことを契機に、雪舟が訪れており、天橋立図が制作されるなど、当時の文人墨客により天橋立の景観が称賛された。

近世の天橋立
天正8年（1580）細川氏が丹後に入封した年に智恩寺へ発給した文書において、智恩寺を「無双霊境」と位置づけ、由緒深い寺院であることから寺領を安堵すると述べている。江戸時代中期、天橋立切断の危機に遭遇した際、智恩寺が藩庁へ提出した願書に、天橋立は「天下無双の絶境」との表現がされている。また、天橋立を切断したならば、諸国往来の者にまで嘲弄されることになることと述べられている。さらに、天橋立は「二神降下の神跡」であることから、切断することになれば、「天下の聞こえ不吉第一」との記述もみられる。

これらにみられる天橋立に対する考え方は、「丹後国風土記逸文」から連綿として伝えられた、神の住み給う「神跡」として尊重され、古来から聖域であるという観念があると思われる。

【崇敬の念をもってみられた場所】

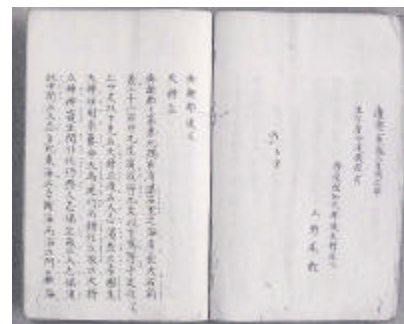
天橋立は「丹後国風土記逸文」以来、連綿として伝えられてきた「神跡」であり、まさに「神の住み給う場」であり、近世初頭では「無双霊境」、近世中期には、「天下無双の絶境」という表現がもたれるなど崇敬の念が持たれていた。

【文人墨客らによって詠み込まれた姿】

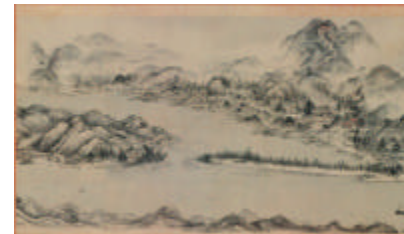
歌枕の地、絵画の対象として

【寺院の境内地として守られた】

天橋立は、智恩寺の境内地として景観保存に努められてきた。



丹後風土記 慶応2年（1866）



天橋立図 室町時代

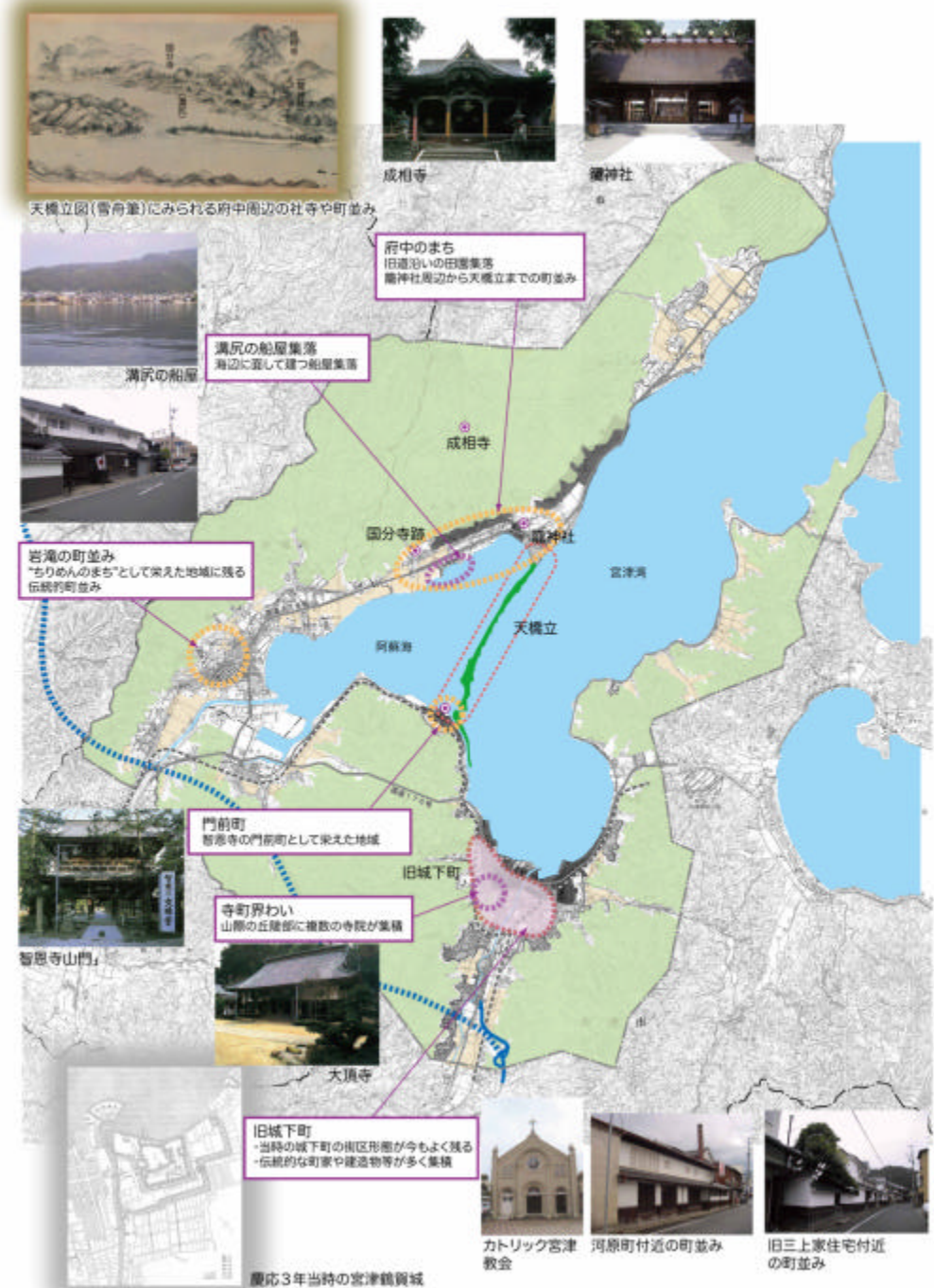


丹後国天橋立之図（扶桑名勝図）江戸時代



智恩寺 文殊堂

天橋立周辺の代表的な歴史的景観資源等



崇拜の地・観光地としての天橋立

天橋立が人々の関心をひいたのは、西国28番札所成相寺が開山した頃（8世紀初頭）と思われる。世屋山中腹（340m）の成相寺は眺望絶景の位置にある。阿蘇海に浮かぶ白砂青松の天橋立などを中心とした自然景観の美が巡礼者の旅の疲れを癒し、自然美を語り伝えたのであろう。

雪舟の「天橋立図」や貝原益軒「丹後与謝海天橋立之図」をみると、すでに中世末期（室町時代）に巡礼者の訪れた文珠や府中地区が開けていたことが分かる。林春斎が「日本国事跡考」に「日本三景の一」に加えたのも17世紀中期のことである。

江戸末期頃から庶民の観光が始まり、明治期以降の鉄道や汽船等の発達等により、天橋立への観光が増加する。



天橋立と橋北汽船 昭和9年

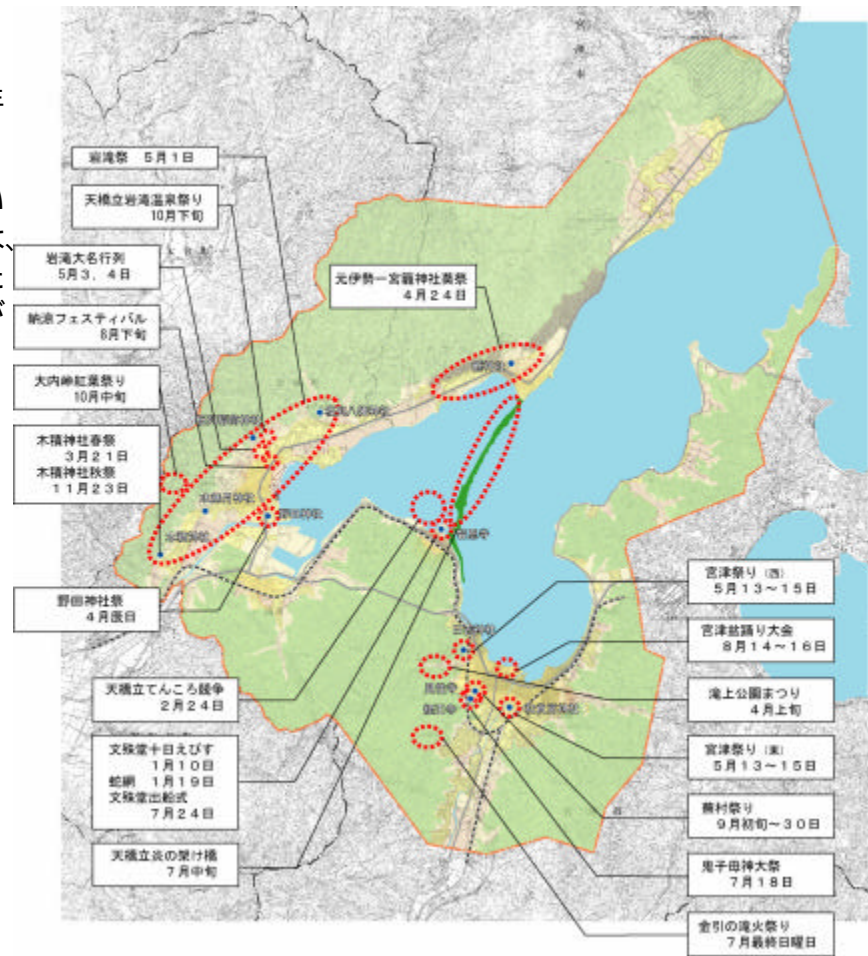
天橋立周辺景観まちづくりの特性

～天橋立周辺の祭り、景観構造～

天橋立周辺の祭り（歳時記）

計画対象地周辺において行われている主な年中行事や祭礼などを中心に整理する。

旧来よりおこなわれている祭礼や現代において創出された祭り、イベント類などの祭事は、現在のまちの営みや先人たちが構築してきたコミュニティや生活と密着した文化をうかがい知ることができる。



天橋立周辺のお祭歳時記

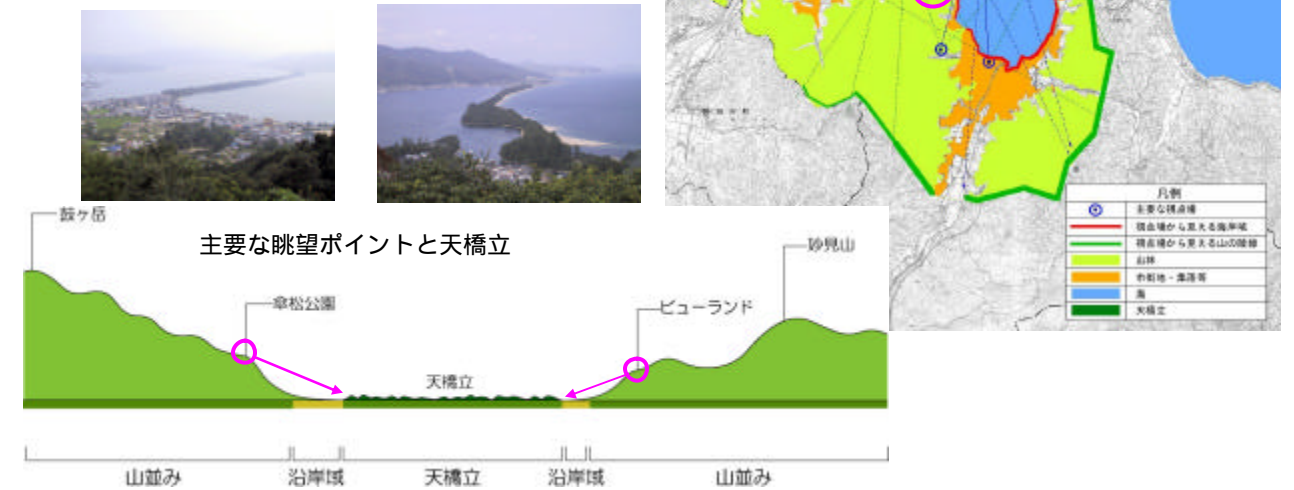
季節	月	時期	お祭り	地域	
春	4月	上旬	海上公園まつり	宮津市	
		下旬	つつじまつり	宮津市	
		24日	元伊勢一宮神社葵祭	与謝野町	
5月	3, 4日	1日	岩滝祭り	与謝野町	
		3, 4日	与謝野町大行列	与謝野町	
		13~15日	宮津祭り	宮津市	
夏	7月	中旬	宮津天橋立「炎の架け橋」	宮津市	
		18日	鬼子母神大祭	宮津市	
		24日	文殊堂出船式	宮津市	
	8月	最終日曜日	金引の滝火祭り	与謝野町	
		29日	水無月神社祭	与謝野町	
		30日	弓木川裾祭	与謝野町	
秋	9月	16日	納涼フェスティバル	与謝野町	
		14~16日	宮津盆踊り大会	宮津市	
		15日	市民総おどり大会	宮津市	
	10月	初旬	宮津灯籠流し花火大会	宮津市	
		中旬	日本三景天橋立オープン	宮津市	
		20日	蕪村祭り	宮津市	
	11月	27日	板列八幡神社祭	与謝野町	
		第三土、日曜	赤ちゃん初土俵入り	宮津市	
		下旬	丹後きものまつり in 天橋立	与謝野町	
	冬	12月	20日	大内峠紅葉祭り	与謝野町
			27日	フェスタ you・友・遊 in MIYAZU	宮津市
			第三土、日曜	柿祭	与謝野町
1月		23日	岩滝神社秋季大祭	与謝野町	
		24日	天橋立岩滝温泉祭り	与謝野町	
		25日	木積神社秋祭	与謝野町	
2月	23日	木積神社秋祭	与謝野町		
	24日	文殊堂十日えびす	宮津市		
	25日	蛇網	宮津市		
3月	24日	大橋立てんころ舟競争	宮津市		
	21日	木積神社春祭	与謝野町		
	24日	天満神社祭	与謝野町		
3月	25日	天神祭	与謝野町		

天橋立を中心とした特徴的な眺望景観

1) 地形的な特徴から生み出される豊かな眺望景観

天橋立への眺望は、沿岸域の海岸線や周囲の山陵の展望施設など、複数のポイントからの眺望が可能。

傘松公園（府中）やビューランド（文珠）からは天橋立や町並みを間近に俯瞰。



2) 沿岸域に形成された市街地（町並み）と眺望景観

重層的な歴史と文化に育まれたまちへの眺望

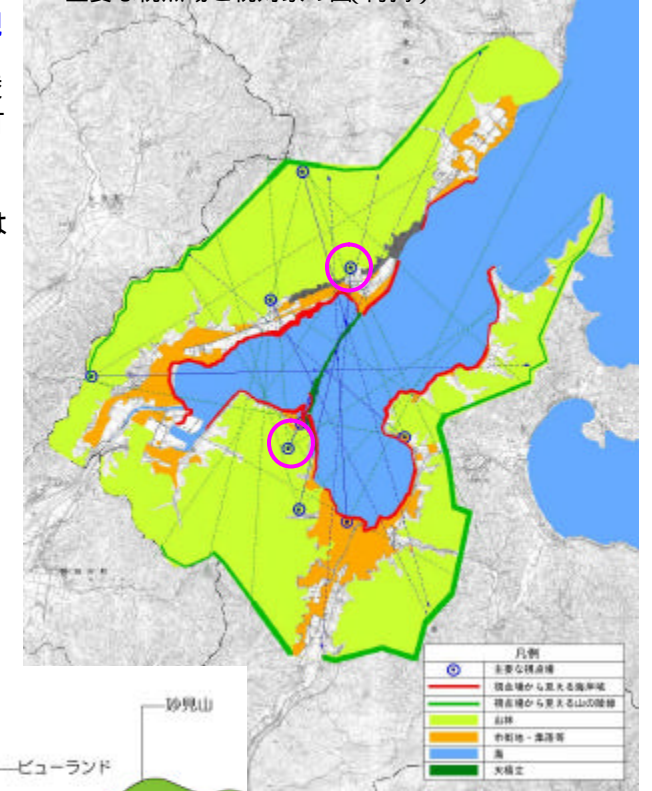
沿岸域には中世からの遺構や神社仏閣、旧城下町町割りを基盤とした市街地や港町、門前町を核とした町並みが残る市街地が点在。

沿岸域の複数の視点場からは、天橋立とともに山並みや沿岸の町並みも眺望でき、変化にとんだ眺望景観。

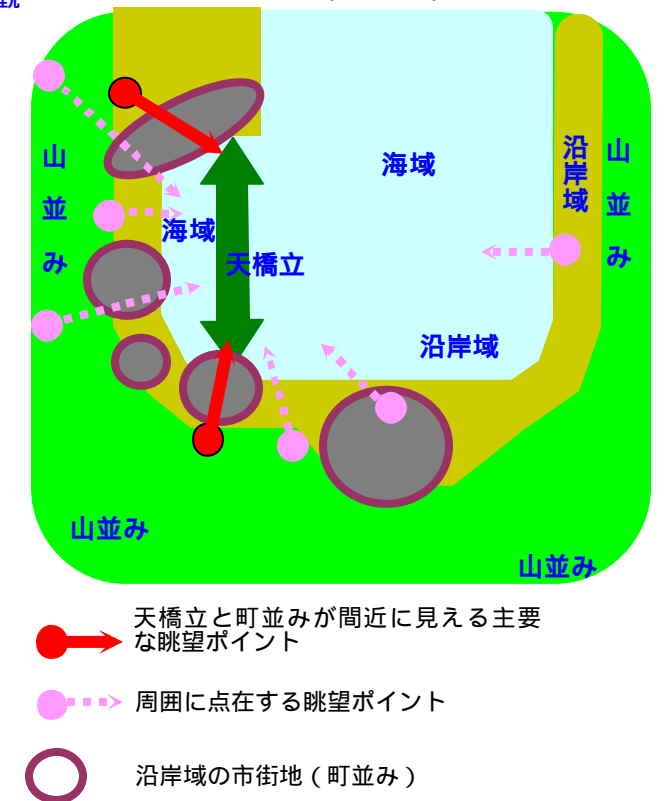
天橋立と町並みが間近に見える眺望景観

天橋立に隣接して発展した府中、文珠地区は、天橋立とゆかりの歴史的な資源が点在し、近傍の眺望ポイントから、天橋立と町並みが同時に俯瞰されるエリア。

主要な視点場と視対象の図(再掲)



眺望景観と市街地（町並み）の関係



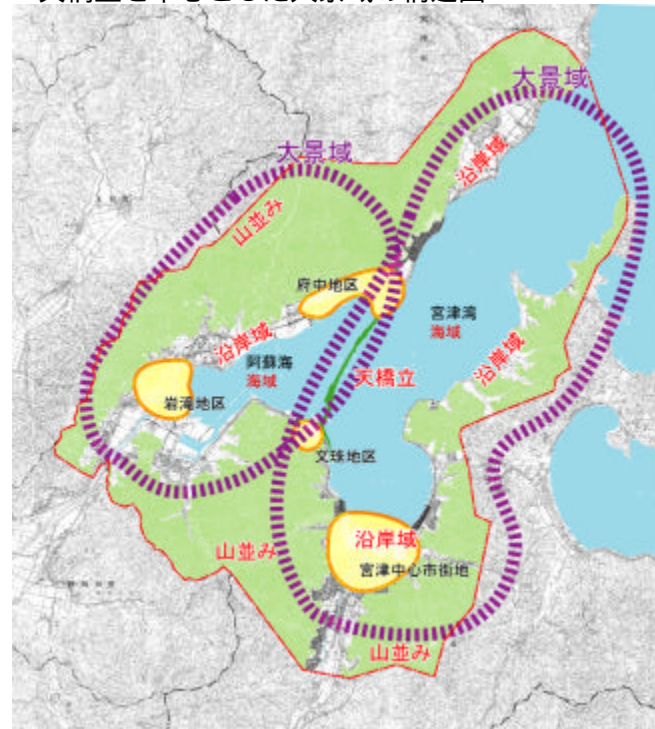
天橋立を中心とした景観構造（大景域の構造）

1) 大景域の構造

天橋立周辺の景観構造は、天橋立を境界にして阿蘇海を囲む景域と宮津湾を囲む景域で区分できる。

この2つの景域をつなぐ存在が天橋立となっている。

天橋立を中心とした大景域の構造図



景域の特徴

阿蘇海側の大景域（大景域）

- ・阿蘇海の沿岸に文珠地区を始め須津、岩滝地区及び府中地区の市街地が点在。
- ・府中地区から岩滝地区にかけて、海岸線に田園や集落も点在。
- ・海岸線を通る幹線道路から対岸の町並みや天橋立が展望できる景域

宮津湾側の大景域（大景域）

- ・宮津湾の再奥部に宮津中心市街地が位置し、宮津湾の東岸には近年開発された戸建て住宅地や集合住宅等が点在する他、小規模な田園集落が海岸線に沿って点在。
- ・栗田半島の北端に近づくほど、集落が少なくなり自然度が高い。
- ・入組んだ地形に沿って通る道路は、天橋立への眺望ポイントが点在。

大景域の主軸となる天橋立

- ・天橋立が沿岸域とつながる府中地区と文珠地区は、天橋立を中心とする眺望景観の主軸を構成する重要な景域。

大景域の構造概念図

